

平成26年6月10日(火)

# ICT街づくり推進会議 地域懇談会@大崎市

## □ ■ 大崎市の取り組み説明資料 ■ □

みちのくの架け橋 人とまち、絆と共にまちなか創生事業  
～住民サービスIDとM2Mビッグデータを用いたまちなかコミュニティ、暮らし再生～



大崎市イメージキャラクター  
パタ崎さん





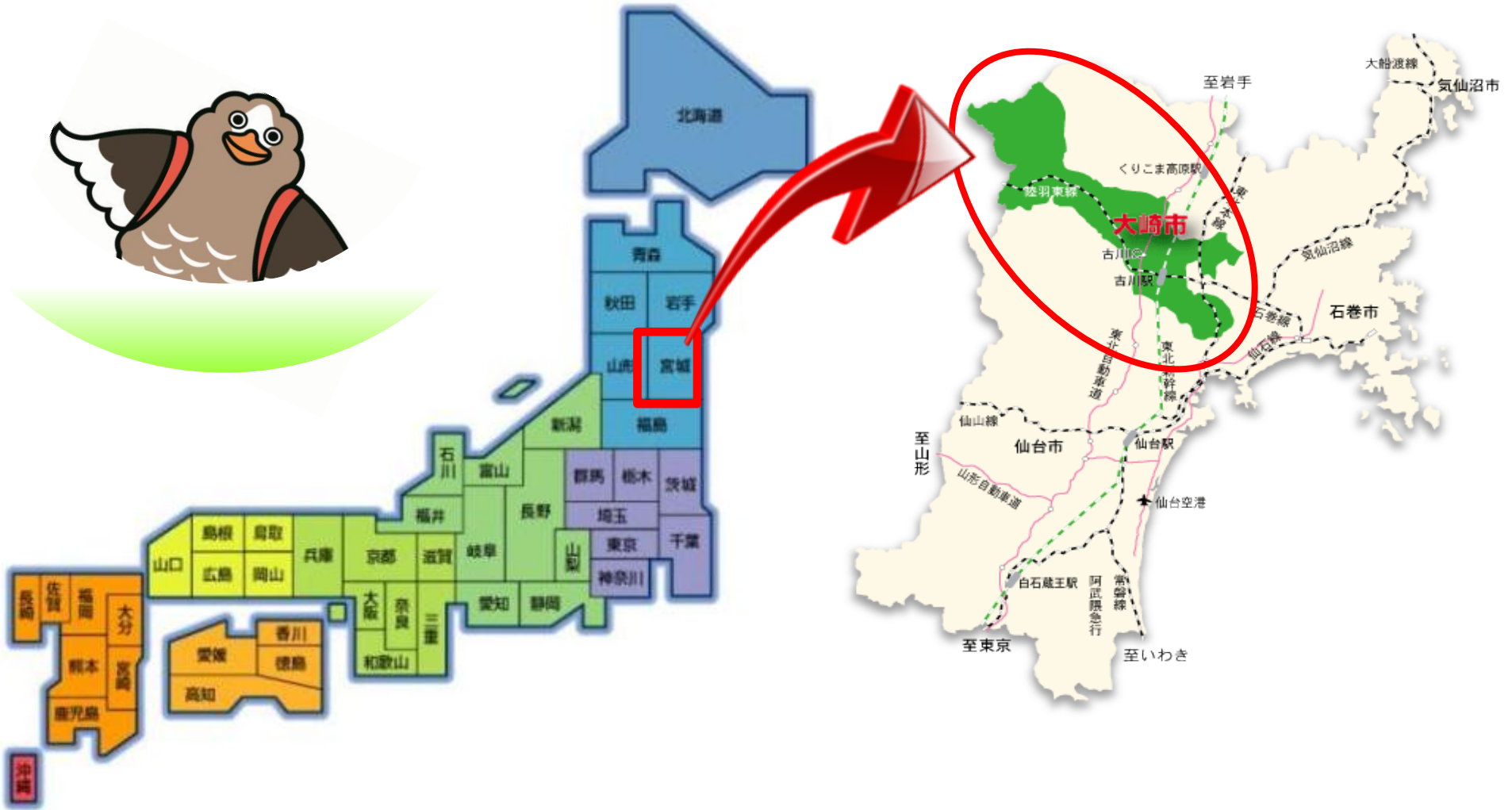
# 大崎市誕生

平成18年3月31日合併





# 大崎市の位置





# 大崎市の概要

62.0km



61.9km

## アクセス

### ●東北新幹線

- ・東京駅から古川駅まで約2時間

### ●航空機利用

- ・成田空港から仙台空港まで約50分
- ・仙台空港アクセス鉄道で仙台駅まで約25分
- ・仙台駅から東北新幹線で古川駅まで約15分

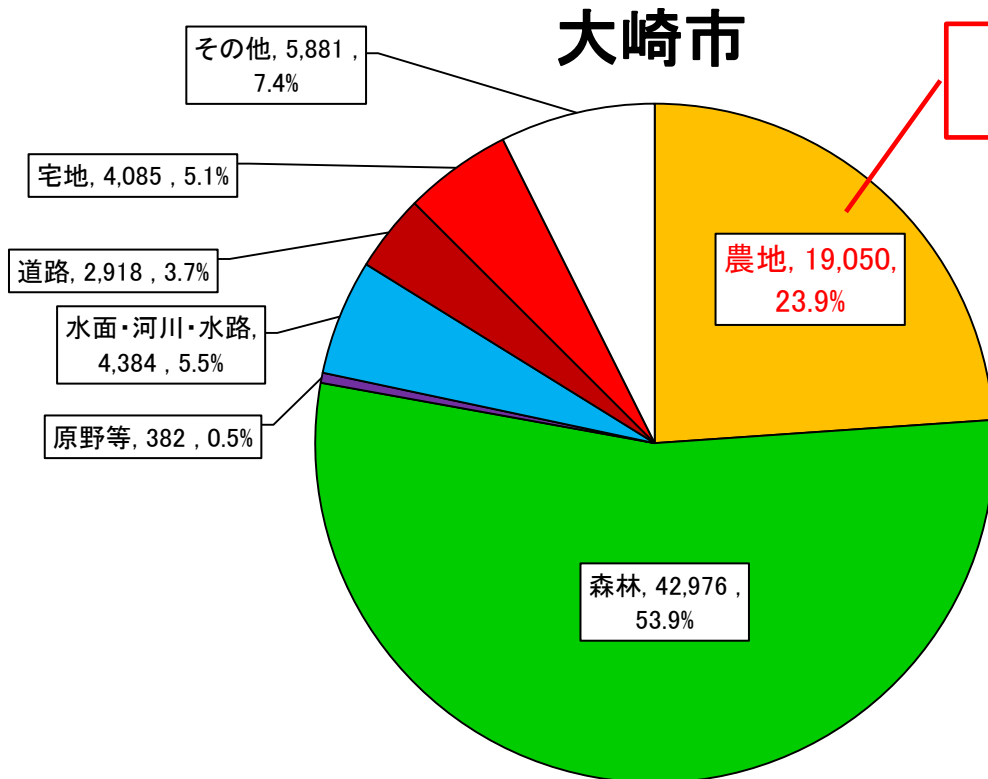
### ●東北縦貫自動車道

- ・浦和料金所から古川ICまで約4時間45分(375km)

# 大崎市

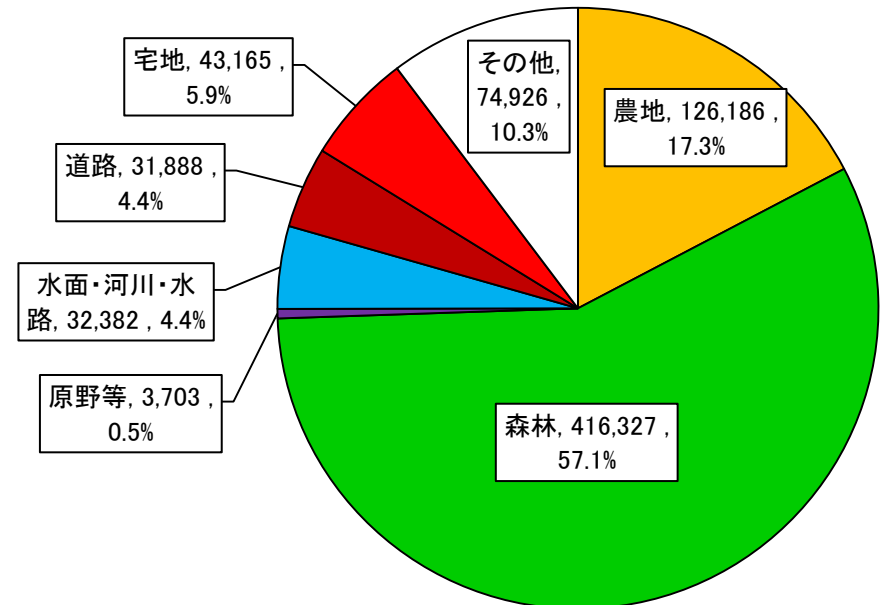
(平成25年4月1日現在:住民基本台帳)

■人口 135,695人 ➡ **県内第3位**  
■世帯数 48,875世帯 ➡ **県内第3位**  
■面積 796.76km<sup>2</sup> ➡ **県内第2位**



県内第1位  
15.1%

## 【参考】宮城県





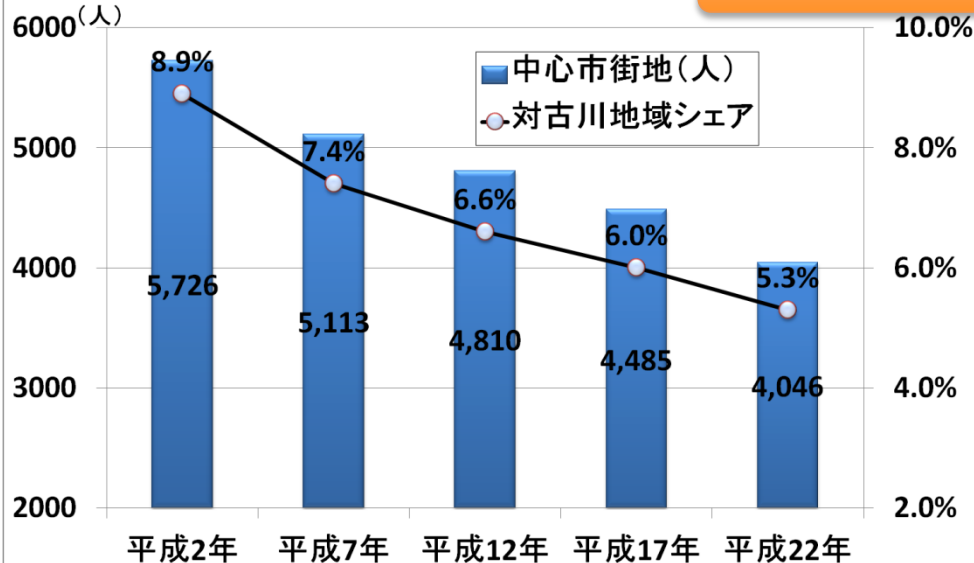
# 背景と目的

- 宮城県大崎市では、東日本大震災で中心部にあたる市街地が特に大きな被害を受けており、中心市街地における人口減少と少子高齢化、商業衰退など年々進む空洞化に加え、東日本大震災の影響による衰退が顕著なことから、中心市街地再生の着実な実現が震災復興に繋がるものと捉えられている。また、中心市街地には、「安心して安全に暮らせるまちづくり」と「まちなかの活力を再生させるまちづくり」を目指し、災害に強い街として整備改善を行う必要があると、**大崎市中心地市街地復興まちづくり計画**において指摘されている。
- 大崎市は、2006年古川市、松山町、三本木町、鹿島台町、岩出山町、鳴子町、田尻町の1市6町が新設合併して誕生した宮城県では3番目の人口を有する市である。東北新幹線（南北）と在来線（東西）が乗り入れる接続駅である古川駅を有し、東北における南北、東西方向の広域的な交通の要衝として、宮城県北地域の発展を牽引する中核都市としての役割を求められている。
- そこで、大崎市では、中心市街地復興まちづくり計画では、「防災力向上」と「活力・にぎわい」の2つの視点から現状の課題を整理し、復興まちづくりの理念と目標を掲げた上で、古川駅や商店街、市役所、市民病院等を中心とした土地利用ゾーニング方針を示している。
- 本事業では、ゾーニング方針に示されている「まちなかコミュニティ再生ゾーン」及び「まちなか商業（暮らし再生）ゾーン」において、ICTスマートタウンの5つの基本機能を提供し、住民サービスの向上、地域経済の活性化に共通IDや行政保有データ活用の有効性を検証する。

# 中心市街地の現況①

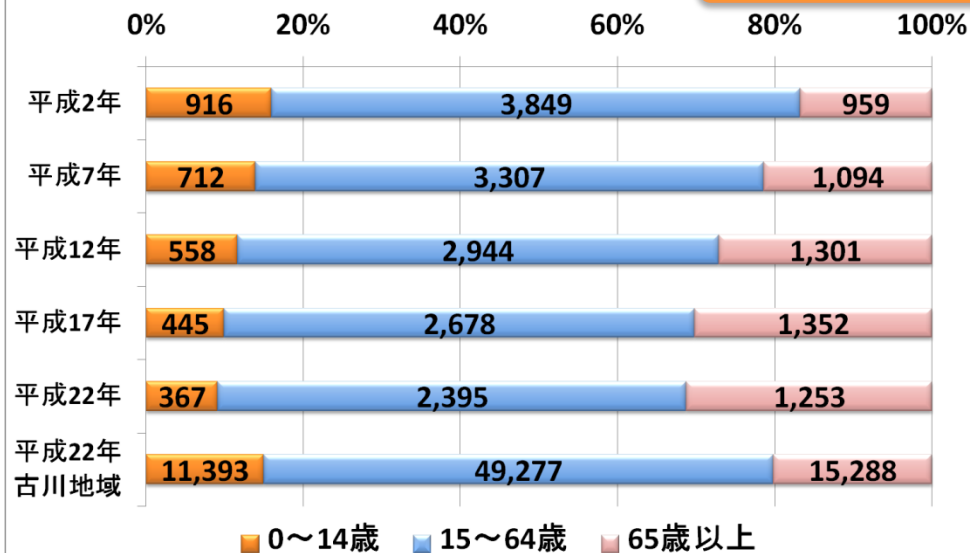
## ■中心市街地の人口動向

人口減



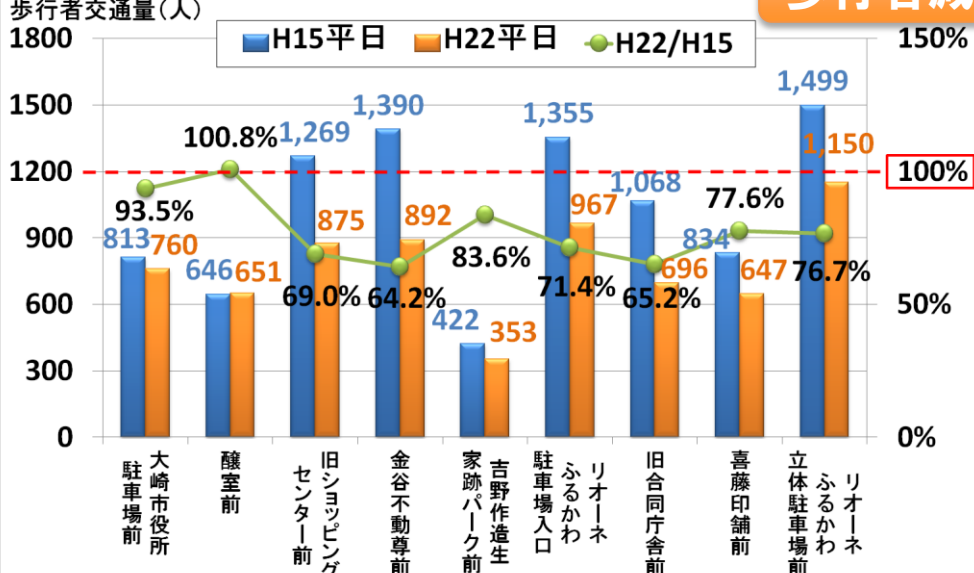
## ■中心市街地の年齢別人口動向

少子高齢化



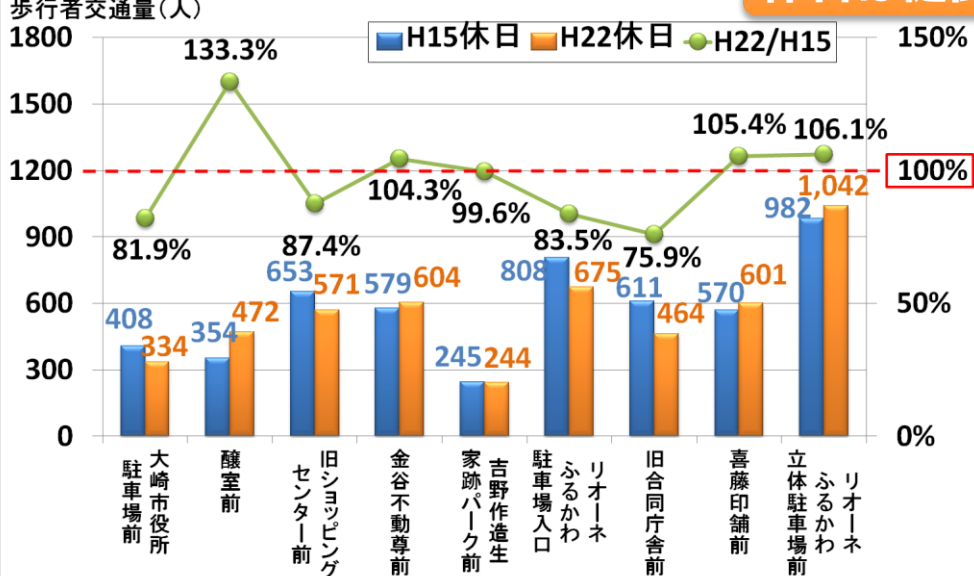
## ■中心市街地の歩行者通行量の推移(平日)

歩行者減



## ■中心市街地の歩行者通行量の推移(休日)

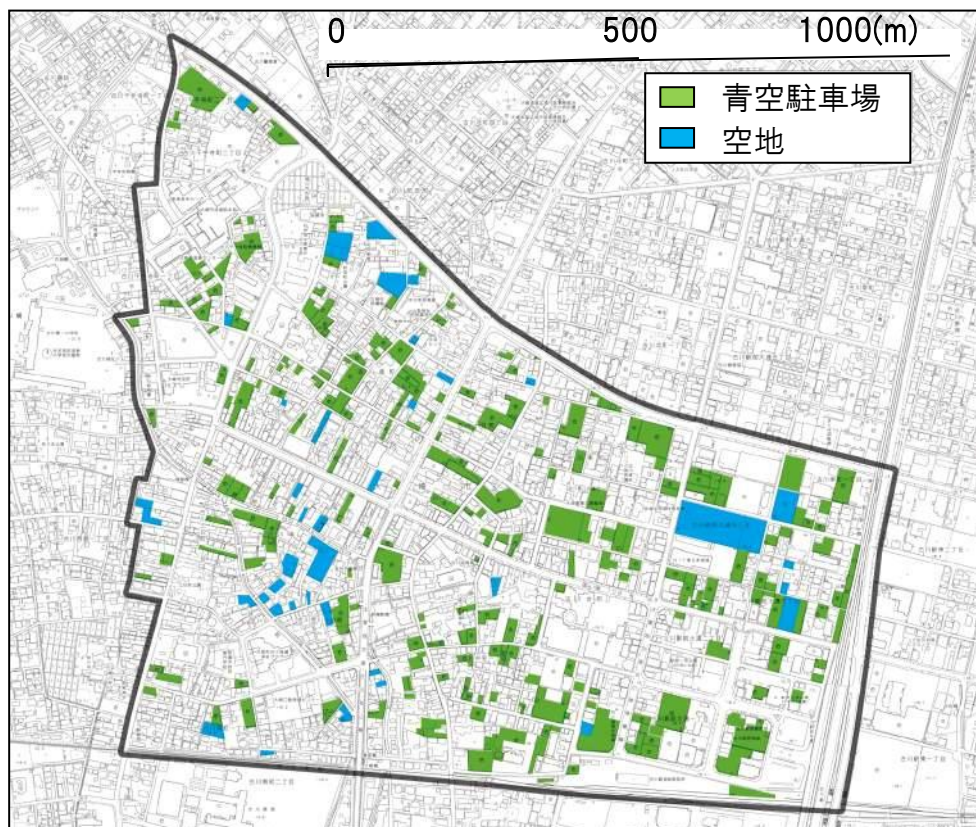
休日は健闘



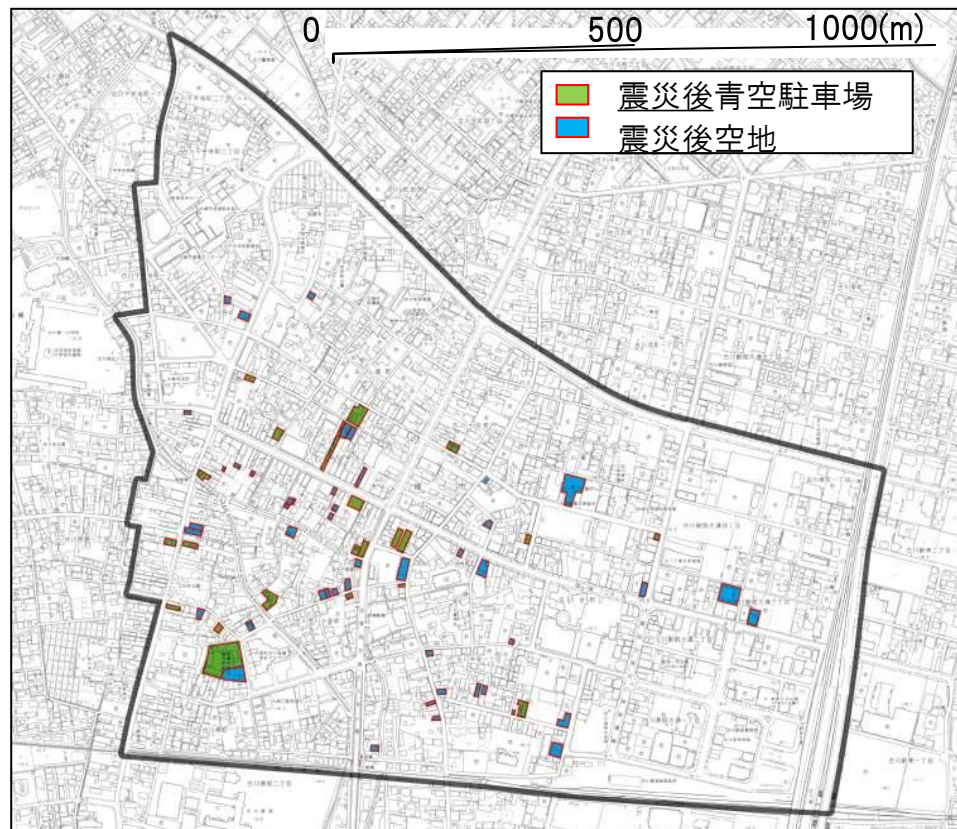
# 中心市街地の現況② 震災の影響

- ① 被災物件約230箇所、被災路線29路線
- ② 中心市街地周辺避難所5施設で最大1568名の避難者を収容(中心市街地の人口は3134人、平成24年4月1日現在)
- ③ 被災物件の接道路線において通行止め、通行規制等の被害
- ④ 震災で空宅地の発生が一層進む
- ⑤ 避難路の確保が必要となる木造家屋の密集地が一部に存在

## 震災前の状況



## 震災後、空洞化が加速





# 大崎市震災復興計画

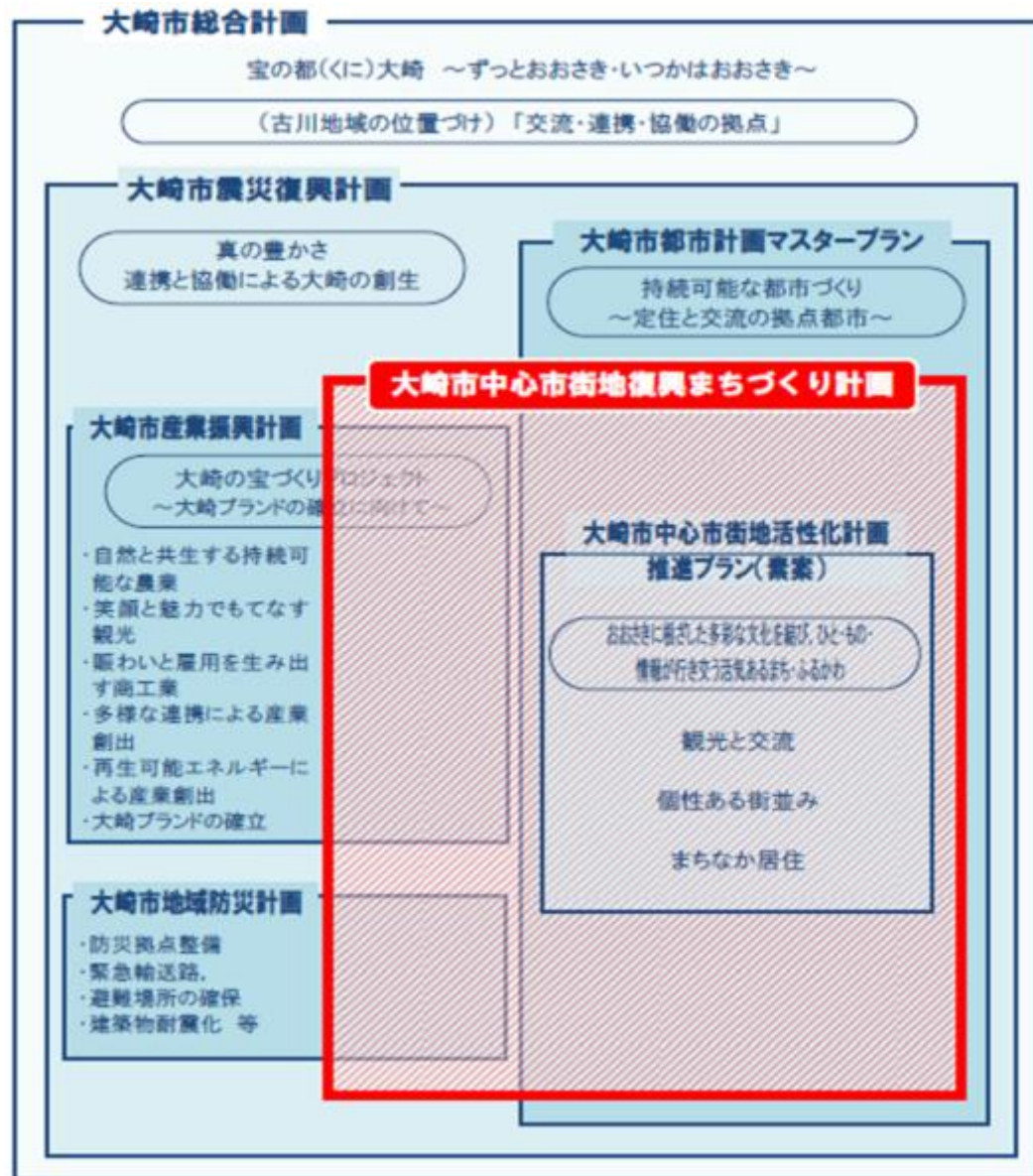
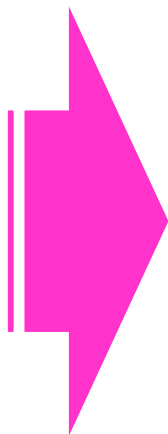
～真の豊かさ

連携と協働による大崎の創生～

# 上位計画等における位置づけ

## 復興まちづくり計画と 上位計画等との関係

中心市街地におけるまち  
づくり計画を定めるうえ  
で、上位計画等との関係は  
右図のとおりです。



# 大崎市震災復興計画

## 大崎市震災復興計画(H23.10)

### 1 生き生きとした暮らしの再建

被災者の生活再建支援

被災者への心身ケア

社会基盤・都市機能の復旧

被災した公共施設の復旧

災害廃棄物の処理

原発事故への対応

### 2 安全で安心なまちづくり

より災害に強いまちづくり

防災体制の強化

自治体間等の連携の充実

防災教育と人材の育成

情報伝達機能の確立

災害拠点病院機能の充実

保健・医療・福祉の充実

教育環境の充実

活力ある地域コミュニティの再構築

### 3 誇りあるふるさとの復興

農林業の復興

商工業の復興

観光業の復興

雇用の維持・創出

まちなかの再生・活性化

新しい産業の創造

再生可能エネルギー(グリーンエネルギー)の促進

伝統・文化の保存・継承

### 4 連携と交流による新たな大崎の創生

新しい東北における大崎の創生

**真の豊かさ**  
**連携と協働による大崎の創生**



# 大崎市中心市街地復興まちづくり計画

防災型道の駅  
(H29)

広域防災・活動拠点整備



市庁舎建設  
(H30)

緒絶川周辺の  
景観整備



二核の「醸室」と「リオーネふるかわ」

七日町地区の小径とひろば整備



- 凡例
- 優先的に開設する避難所
  - 指定避難場所・避難所
  - 幼稚園・保育所・児童館等
  - 福祉施設
  - 文化財
  - その他資源

まちなか回遊路・避難路整備



災害公営住宅  
入居開始  
(H27.3)

図書館新設  
(H28)

駅～新図書館  
周辺整備



JR古川駅

ICT街づくり事業でソフト面を強化



# 復興まちづくりの課題整理

## 【大崎市中心市街地が果たすべき役割】

- ① 広域的な防災拠点、交流と連携の拠点として、防災力の強化を担う役割
- ② 復興のシンボルとして、活力・にぎわいの再生を担う役割

### 課題整理

#### 1. 防災力向上の視点

- 広域的な防災拠点機能の確保
- まちなか防災安全度の向上
- 「共助」を支えるコミュニティづくり

#### 2. 活力・にぎわい再生の視点

- 人口定着とそれを支える生活利便機能の充実
- 「二核二軸」構造の形成・強化
- 回遊性・滞留性の向上

	検証項目
①	防災力向上
②	地域コミュニティ力向上
③	回遊性・滞留性の向上

### 評価方法

本事業では、収集されたデータの分析及びアンケート調査を通して、これらの検証項目を評価する。

# 実証実験サービスとシステムの概要

- ① ICTサポータ制度を通じた人材育成、皆の公共の実現
- ② プライバシーに配慮したみんなで見守りサービス
- ③ Wi-Fi街灯を使った災害に強いネットワーク





# 市民ICTサポーター制度

## SNSを活用した市民に向けた楽しい情報発信

～大崎のブランド、キャラをデザインして情報を発信する～  
本市のメッセージを伝える旗頭となるキャラクターを作成し、幅広いストーリー展開やキャラの魅力的な人格、タレントの演出等により、誰もが期待し、注目するキャラクターとして活用する。



キャラクターの作成



Webの活用

## 市民ICTサポーター制度で市民をネットワーク化

～市民の活動をネットワークして、交流を支援する～  
これまで地域単位で取り組んできた活動を、市民ICTサポーター制度で、市内全域を結ぶネットワークをつくる。



市民ICTサポーター制度

## スマホを活用した市民が大崎を楽しむ活動

～市民が大崎をめぐり楽しむ活動を推進する～  
旧市町を超えて、市民が大崎の魅力を知り、楽しく巡ることで、改めてオール大崎の魅力を市内外に発信することのできるように、スマホを使って、中心市街地や市内を楽しむことができるようにする。



大崎八十八か所めぐり



大崎パスポート

## 市民が大崎の魅力を発掘してまとめる活動

～市民自身が改めて大崎市について学び、発信する～  
市民自身が大崎市の魅力を再認識してもらうため、大崎の魅力を発掘してweb上に、web大崎カルタや、web大崎カレンダーを作成して、市民が大崎を知ることができるようにする。

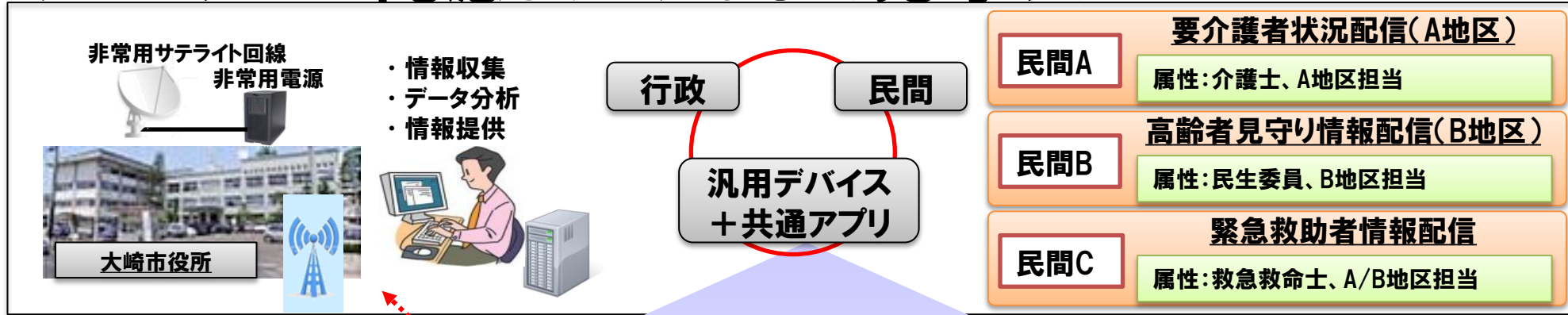


web大崎カルタ



web大崎カレンダー

# プライバシーに配慮したみんなで見守りサービス



住民属性に応じた権限付与

1人を複数人で見守り

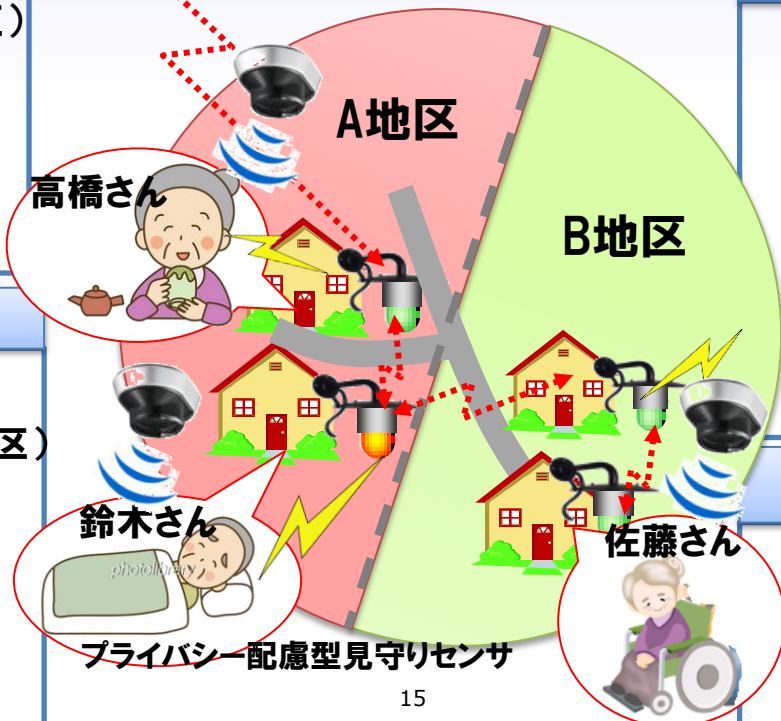
要介護者状況配信(A地区)

介護士(A地区)

状態	氏名	ID	住所
●	高橋	456	A-1-2
●	鈴木	458	A-2-2
●	XXX	459	A-5-6

緊急救助者情報配信

救命士(A/B地区)



高齢者見守り情報配信(B地区)

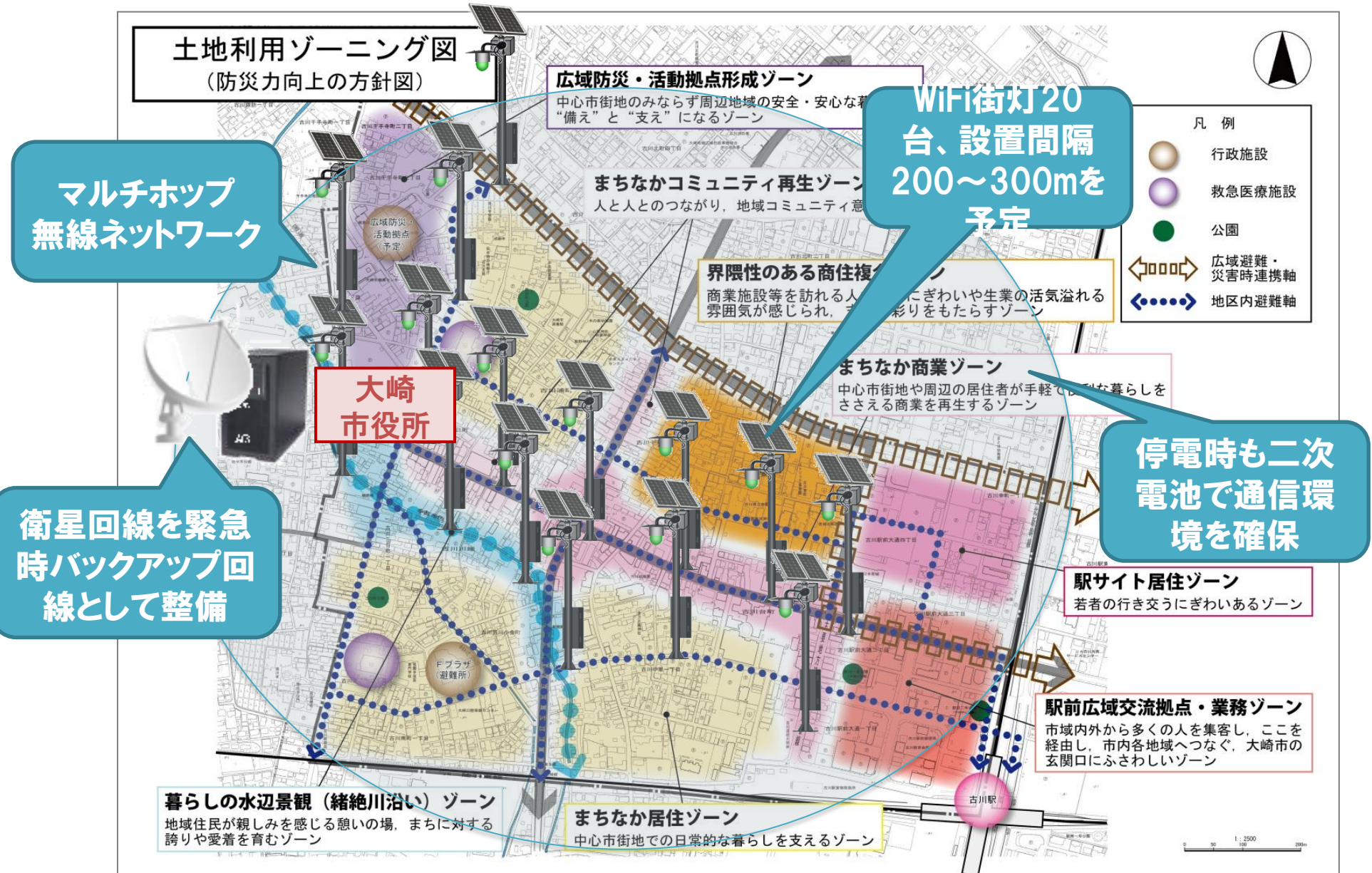
民生委員(B地区)

家族への安心情報配信(個別)

センサ情報に基づき、1日に1回安心情報を家族に配信



# Wi-Fi街灯を使った災害に強いネットワークの構築



# 実証実験推進体制（大崎市ICT街づくり推進協議会）

## まちづくり事業の推進

- ・大崎市役所
- ✓中心市街地復興まちづくり計画の実施
- ✓行政データの提供
- ✓(株)まちづくり古川、(株)アクアライト台町、(株)醸室、古川商工会議所、七日町中央通り商店振興組合等と、中心市街地における商業活性化事業等を推進

## まちづくり環境整備と運用

- ・アルプス電気株式会社
- ✓災害に強いネットワークシステム構築
- ✓実証実験実施
- ・株式会社アルプスビジネスクリエーション
- ✓介護サービス提供
- ✓実証実験コーディネーション
- ・慶應義塾大学
- ✓防災、減災に関する情報利活用の検討

## 街づくりプラットフォーム提供

- ・ソフトバンクテレコム株式会社
- ✓ビッグデータ基盤提供、既存インフラ提供
- ✓プロジェクト全体管理
- ・ID認証連携基盤提供企業（選定中）
- ✓共通ID連携基盤提供
- ・国立情報学研究所
- ✓ビッグデータ分析
- ✓ライフログの活用と保護に関する検討

## = 事業の成果・課題 =

### 市民ICTサポーター制度事業

- ◇計5回のワークショップの実施、延79人のICTサポーターを育成。
- ◇400点の新しい街情報を発掘、アプリへ公開。

### みんなで見守りサービス

- ◇高齢者等の10世帯を対象に、見守りセンサーを3台ずつ設置。
- ◇ 「安心感が得られた」との回答が90%（高齢者等・家族共に90%）、 「お金を払ってでも継続して見守りサービスを利用したい」との回答が45%（高齢者等：60%、家族：30%）。

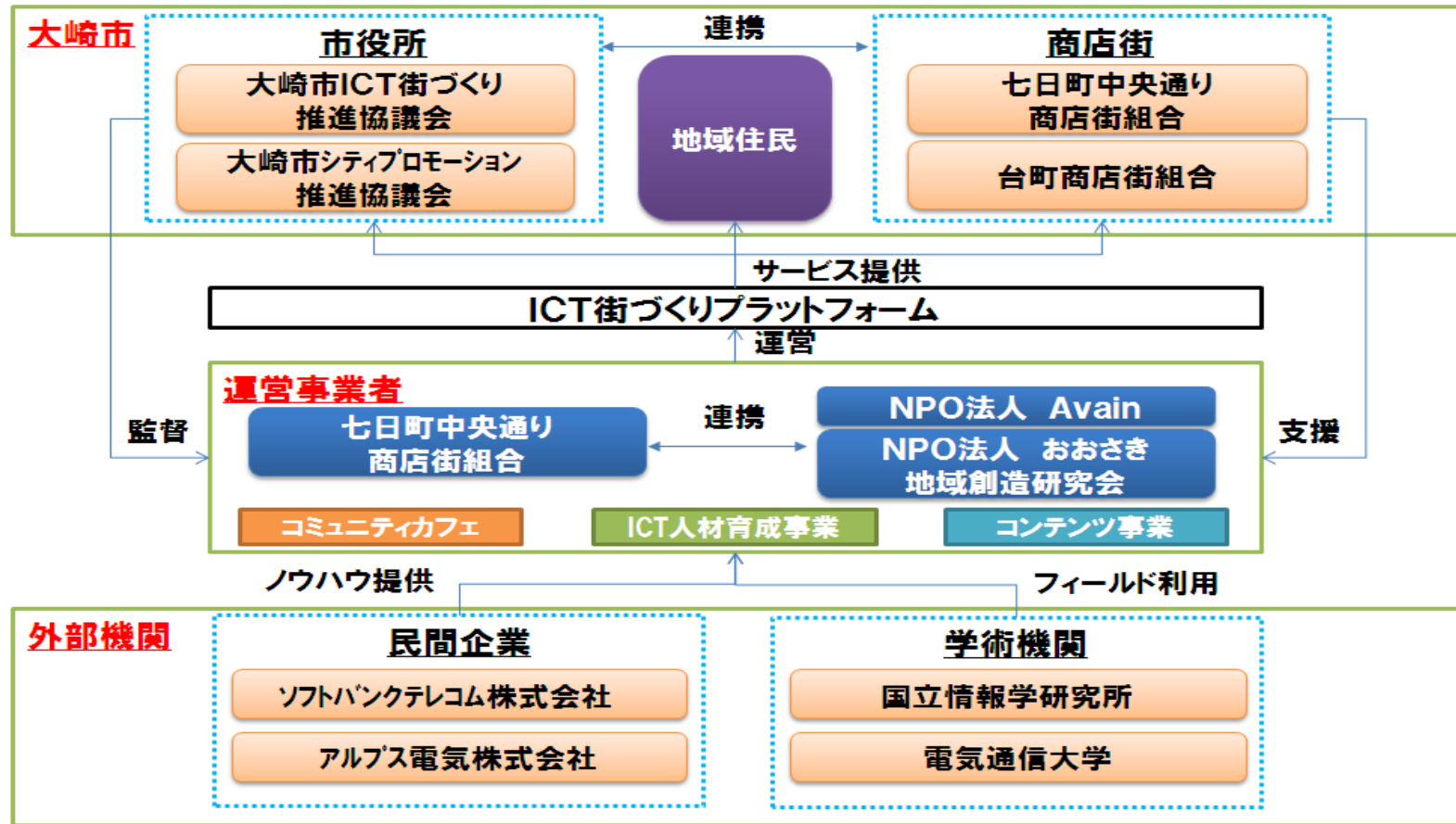
### 災害に強いネットワーク

- ◇搬型無線機を20台の設置し、古川七日町商店街をカバー。
- ◇ 920MHzマルチホッピング無線機にて、バックアップ用蓄電池で24時間以上の連続通信が出来る事を実証。
- ◇ 回遊性調査により、期間中(2/1-3/16)、中心市街地を利用するユニーク人口は、通過交通を含め、約20万人程度と推計。



# 今後の推進体制案について

実証実験を終えて以下の図のような推進体制を進めるべく現在市内で検討している。





## 今後の方向性

今般の実証実験を終えて、事業の有効性を見極め、費用対効果を念頭に、「継続して実施するもの」「推進方法を見直すもの」など見極めて、ビッグデータの有効的な活用を目指し、ICT事業の推進に向けて庁内で検討していく。